

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101496		
法人名	医療法人善昭会		
事業所名	グループホーム菜の花	(1F)	
所在地	大分県大分市東鶴崎3-1-6		
自己評価作成日	平成23年10月19日	評価結果市町村受理日	平成23年12月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成23年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで落ち着いた住宅地に立地し、環境的にとても恵まれている。母体の医療機関や老健と併設しており、緊急時の対応も万全である。季節感のある行事を多く行い運動会は家族や地域の方々と共に楽しみ、個人の誕生日をとっても大事にしております。今年は第一回からずっと手作りしている。今年は庭の作物が豊作で入居者の話題となる。毎月ご家族や町内会に郵送したり回覧している「便り」は100号を越え、築いてきたホームの雰囲気は入居者と職員と家族の暖かい関係を物語っていると思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・個人を大切にすることを旨とし、家族ともよく連絡を取って、その人らしい生活が継続できるよう支援している。
 ・季節ごとの伝統行事を行い、行事に添った飾り付けをしたり、個人の誕生日には必ず手作りのケーキを作るなど、日々の暮らしを大切にしている。
 ・改善シートを作って、優先的に取り組む課題として実践し、毎年クリアしている。
 ・地域交流においても「便り」を配布するなど、地道な取り組みにより、地域に認められたグループホームとして存在している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にしている	開設当初より「地域と共に、自然と共に、その人らしく」を理念としその実践に向けて日常的に教育している。	グループホームの理念をわかりやすい図に示し、その実践ができているかを、職員と話し合っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神楽、お祭り、敬老会等への参加。運営推進会議等での自治会長、民生委員との意見交換や交流、散歩時の地域の方との交流、近所の喫茶店や商店での買い物、地域の小学生や園児との交流をしている。	住宅地の中にあるグループホームとして、地域交流をととても大切にしている。近くの神社への参拝や、地元商店での買い物の支援が行われ、小学生や園児との交流、職員の地域行事への参加などがある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地区の行事等で少しづつやっているが、今後も出来る事から取り組んでいきたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回開催している。30回余りの会を重ねることでホームの事や認知症についてより理解してもらいホームの取組をタウン誌等に掲載してもらおう予定がある。	2か月に一度開催し、グループホームの意義や、認知症についての理解を深めてもらっている。地域住民の参加もあり、震災についての取り組みなどの意見を積極的に述べている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や運動会に参加してもらう事で、関係がより密になり、良い関係が築けている。	市の職員が毎回運営推進会議に出席しており、活発な意見交換がなされ、助言は会議録にまとめられている。わからないことを聞いたり報告書を市に持参するなど、連携が図れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せずに外出に付き添う。出来る限りの寄り添いと見守りで身体拘束をしないケアを実践している。定例会等で勉強会を実施している。	身体拘束について、職員は正しく理解しており、配達の仕事をしていただいていた利用者が、習慣的に夕方出かける場合には、職員がついて行くことなどで対応している。拘束についての研修も行なっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に管理者は職員の言動に気を配り、日々のカンファレンス等でその都度注意を促す。虐待防止の研修にも参加し定例会等で再度全職員に教育を徹底する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去にこの制度を利用していた方がいた。管理者は研修に参加し定例会で職員に周知している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前までは相談員が、契約とその後は管理者やホームの職員が、家族や関係者が納得いくまで、説明を行う。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情相談施設の案内等玄関に設置している。毎月の便りに個別のメッセージを添えている。年に一回親睦会を開催し意見や意向を聞き運営に反映している。	毎月のたよりに一人ひとりの様子を書いた手紙を入れて報告をし、折にふれ家族から意見を聞いている。アンケートを実施し、返ってきた内容を職員で話し合っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を開き職員一人一発言のもと全員が自由に意見を言い、業務の見直しや運営に活かしている。	毎月定例会を開いて職員の意見や希望を聞き、業務の見直しをするなど、運営に活かしている。どんなことでも言いやすいように普段のコミュニケーションを大切にしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、時間外手当の支給。勤務体制は管理者はフリーの勤務とし、柔軟に対応出来る様にしている。希望すれば講演会や研修参加、資格取得への支援をしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される研修にはなるべく多くの職員が参加できる様にしている。研修の報告は勉強会を兼ねて定例会で発表し報告書は誰でも閲覧できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の連絡会主催の講演会やレクリエーション、研修会等に参加している。今年度は県の複数事業所連携事業に参加し視察や交換実習等も参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人に事業所を見学してもらうことからはじめ必要であれば通ってもらったり、管理者が会いに行ったり、遊びに来てもらったりしながら関係をつくっていく。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>相談員、ケアマネ、管理者が連携し家族と納得のいくまで話す。見学に来てもらったり、職員と話してもらう。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談員、ケアマネ、管理者が連携し早急な対応が必要な方には可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては他事業所のサービスに繋げるなどの対応もしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の得意な事や出来る事を把握し、一緒にやりながら教えてもらったり、助けてもらったりする。また、そういった場面が多くもてる様工夫する。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時にはどんな小さい事でも報告する。また、いつもと違う事や伝えたい事があればすぐに家族に連絡する。毎月の「菜の花便り」には担当がそれぞれの家族に現状を詳しく報告する。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの商店での買い物。家族、知人との電話や手紙での連絡を取り持つ。充分でない方もあり今後も支援につとめる。</p>	<p>関係継続の支援をととても大切にしている。身近な人に手紙を書く手助けをしたり、家族と一緒に外出してもらうよう頼んだり、計画を立てて馴染みの場所に連れて行くなどしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できる様にしている。また、日々変化する事もあるので、注意深く見守る様にしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携機関の利用や面会に行く等して関係を断ち切らないようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	場面、場面での会話の時の言葉をしっかり受け止め希望や意向の把握に努める。また意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	独自の個別シートを使い、情報を蓄積し職員間で活用している。アンケートでその人の思いを把握したり、会話や表情から汲み取るなどして支援に活かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、併設施設との情報交換、家族、関係者からの情報の把握につとめている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報交換、わかりやすい記録の仕方、定期的なカンファレンス等により、把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、かかりつけ医等の意見を反映し本人が楽しめる事、好きな事を計画に盛り込む。	個性を大切に、できないことをできるようにするケアプランではなく、本人が好きで、楽しめることを重視したケアプランを、本人、家族、医師の意見を反映させて作っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化には、個々のケア記録や独自のシート、看護記録に詳細に本人の言葉で記録し情報を共有し、それらを基に見直し、評価を実施している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、面会の延長や家族の外泊、受診の付き添い等、柔軟に対応している。		

事業者名: グループホーム菜の花 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議での情報交換、避難訓練時の消防署との関わり、小学校のボランティアの受け入れ地区の敬老会への参加、近所の理、美容院の利用や商店での買い物など実施している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人や家族に情報提供し希望する医療が受けられる様、支援している。また、ご家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	本人や家族が希望するかかりつけ医の継続に向けての支援体制がある。月に2回、協力医の訪問診療もあり、歯科などの専門医療は家族と連携を取って受診している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に本人の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員居ない時間は、提携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため医師や看護師と相談し事業所内での対応可能な段階なるべく早く退院出来る様、アプローチしている。また、職員が頻繁に見舞う様にしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。	利用開始時に、重度化した場合のグループホームの指針を説明し、確認書を交わしている。医療の必要度が高くなった場合は家族と話し合い、希望があれば可能な限り入居継続ができる。職員はターミナルの研修に行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	担当医の協力のもと緊急時対応の勉強会を実施し、AEDを設置するとともに勉強会を実施した。夜勤時の緊急対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し消防署の協力を得て年2回避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。非常食を準備し地域の協力体制については、自治会や消防団との連絡や運営推進会議で協力をよびかけている。	消防署の協力を得て、同法人3施設の合同訓練を年に2回行っている。避難経路への誘導や消火器の使い方、身体保護などの訓練を行ないマニュアルも整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やカンファレンスの折りに、職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方をリーダーが点検し本人の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	日々の関わり方を職員間で話し合い、人格を尊重した対応ができているかを、勉強会やカンファレンスで検証している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせた声かけをし、些細な事でも本人が決める場面を作っている。(飲み物の選択、出欠カードのシール貼り、する、しない、の選択)職員の決めた事を無理強いしないで複数の選択肢を提案し自分で決める場面をつくっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や行事等本人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は本人の意向で決めており職員は見守りや支援が必要な時に手伝う。自己決定がしにくい方には、職員と一緒に考えて本人の気持ちそった支援を心掛けている。日頃から化粧やおしゃれを楽しみパーマや毛染めも利用している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夕食は運搬食のため調理を一緒にする機会は少ないが、おやつと一緒に作ったり、配膳や片づけ等を入居者と共に行い、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事出来る様雰囲気作りも大切にしている。	昼、夕食は法人から運んでいるが、利用者の好きなものが食べられるよう、栄養士に頼んでメニューに取り入れてもらったり、たまにおやつを手作りしている。職員全員がテーブルについて同じ物を一緒に食べ、家庭に近い食事風景となっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の作成。食事の残食量のチェックと記録を摂取量を把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い能力に応じて職員が見守ったり介助を行っている。毎日嚙下体操を行ったり歯科医の協力で、定期健診を実施している。		

事業者名: グループホーム菜の花 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。状況の許す限りハビリパンツやおむつの使用を減らし、普通のパンツに尿とりパット等で対応している。	排泄パターンを見ながらトイレ誘導をして排泄の自立を促している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を採り入れている散歩、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便が出来る様取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施している。夜間入浴も実施してみたが昼間の入浴を希望する方が多く現在の時間帯となっている。仲のよい方は一緒に入ったり1人が良い方はゆっくり1人で、簡易リフトを設置したり順番表を作ったりして対応している。	入浴は毎日実施し、多くの人が毎日入浴する。みんなが気持ちよく入浴できるように順番を決め、ゆっくり入れるように配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休憩がとれるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬できているかの確認をしている。処方や内容の変更時や状態変化が見られるときは、詳細な記録をとり看護職員や医療機関との連携を図っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、エステや写真の掲載をお願いしている。また、「よそ行き療法」と銘打って本人の行きたい所や近所の喫茶店等に出かける。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は時間の許す限り散歩に出る。一人ひとりの習慣や楽しみ事に合わせて近所の喫茶店でお茶を飲んだり、彼岸にはお寺参り等積極的に外出している。	外出支援には特に力を入れており、散歩や買い物のほか、個別に行きたいところや懐かしい場所などに行けるよう、プランを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>少額のお金を自分で管理し買い物に行き自分で払う人もいる。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや声かけを行うとともに、贈り物のお礼の手紙や葉書を書いてもらったりしている。家族から制限されている人もいるため考慮している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>調度品や飾り付けは懐かしく感じたり、使いやすい物品を置いている。また、季節の野菜や花を植えて季節感を採り入れている。</p>	<p>仲の良い人、相性の悪い人には配慮し、テーブルの置き方を工夫して、落ち着いて過ごせるようにしている。庭に季節の花や野菜を作り、庭木と共に季節を感じてもらっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>炬燵を置いたり、廊下に椅子をおいて別空間を作ったり、玄関にベンチを置きくつろげるスペースづくりに取り組んでいる。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>寝具やタンス、仏壇等、写真や思い出の品々が持ち込まれ、居心地の良さを配慮している。</p>	<p>その人が昔から使っていた家具などが置かれており、家族の写真なども飾っている。部屋に介護計画が利用者にわかりやすい言葉で書かれていて、本人の目標や励みになっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>何が分かりにくいのか、どうしたら本人の力でやってもらえるのか、を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。新たな混乱や失敗が生じた時は、職員で話し合い、不安や混乱材料を取り除き、自立支援につなげている。</p>		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101496		
法人名	医療法人善昭会		
事業所名	グループホーム菜の花	(2F)	
所在地	大分県大分市東鶴崎3-1-6		
自己評価作成日	平成23年10月19日	評価結果市町村受理日	平成23年12月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで落ち着いた住宅地に立地し、環境的にも恵まれている。母体の医療機関や老健と併設しており、緊急時の対応も万全である。季節感のある行事を多く行い運動会は家族や地域の方々と共に楽しみ、個人の誕生日をとてとても大事にしておりますケーキは第一回からずっと手作りしている。今年は庭の作物が豊作で入居者の話題となる。毎月ご家族や町内会に郵送したり回覧している「便り」は100号を越え、築いてきたホームの雰囲気は入居者と職員と家族の暖かい関係を物語っていると思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

[1ユニット目に記載]

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	開設当初より「地域と共に、自然と共に、その人らしく」を理念としその実践に向けて日常的に教育している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	神楽、お祭り、敬老会等への参加。運営推進会議等での自治会長、民生委員との意見交換や交流、散歩時の地域の方との交流、近所の喫茶店や商店での買い物、地域の小学生や園児との交流をしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地区の行事等で少しずつやっているが、今後も出来る事から取り組んでいきたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回開催している。30回余りの会を重ねることでホームの事や認知症についてより理解してもらいホームの取組をタウン誌等に掲載してもらう予定がある。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や運動会に参加してもらう事で、関係がより密になり、良い関係が築けている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せずに外出に付き添う。出来る限りの寄り添いと見守りで身体拘束をしないケアを実践している。定例会等で勉強会を実施している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に管理者は職員の言動に気を配り、日々のカンファレンス等でその都度注意を促す。虐待防止の研修にも参加し定例会等で再度全職員に教育を徹底する。		

事業者名: グループホーム菜の花 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去にこの制度を利用していた方がいた。管理者は研修に参加し定例会で職員に周知している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前までは相談員が、契約とその後は管理者やホームの職員が、家族や関係者が納得いくまで、説明を行う。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情相談施設の案内等玄関に設置している。毎月の便りに個別のメッセージを添えている。年に一回親睦会を開催し意見や意向を聞き運営に反映している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を開き職員一人一発言のもと全員が自由に意見を言い、業務の見直しや運営に活かしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、時間外手当の支給。勤務体制は管理者はフリーの勤務とし、柔軟に対応出来る様にしている。希望すれば講演会や研修参加、資格取得への支援をしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される研修にはなるべく多くの職員が参加できるようにしている。研修の報告は勉強会を兼ねて定例会で発表し報告書は誰でも閲覧できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の連絡会主催の講演会やレクリエーション、研修会等に参加している。今年度は県の複数事業所連携事業に参加し視察や交換実習等も参加している。		

事業者名: グループホーム菜の花 2F

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に事業所を見学してもらうことからはじめ必要であれば通ってもらったり、管理者が会いに行ったり、遊びに来てもらったりしながら関係をつくっていく。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談員、ケアマネ、管理者が連携し家族と納得のいくまで話す。見学に来てもらったり、職員と話をしてもらう。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員、ケアマネ、管理者が連携し早急な対応が必要な方には可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては他事業所のサービスに繋げるなどの対応もしている。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事や出来る事を把握し、一緒にやりながら教えてもらったり、助けてもらったりする。また、そういった場面が多くもてる様工夫する。			
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはどんな小さい事でも報告する。また、いつもと違う事や伝えたい事があればすぐに家族に連絡する。毎月の「菜の花便り」には担当がそれぞれの家族に現状を詳しく報告する。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店での買い物。家族、知人との電話や手紙での連絡を取り持つ。充分でない方もあり今後も支援につとめる。			
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できる様にしている。また、日々変化する事もあるので、注意深く見守る様にしている。			

事業者名: グループホーム菜の花 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携機関の利用や面会に行く等して関係を断ち切らないようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	場面、場面での会話の時の言葉をしっかり受け止め希望や意向の把握に努める。また意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、併設施設との情報交換、家族、関係者からの情報の把握につとめている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報交換、わかりやすい記録の仕方、定期的なカンファレンス等により、把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、かかりつけ医等の意見を反映し本人が楽しめる事、好きな事を計画に盛り込む。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化には、個々のケア記録や独自のシート、看護記録に詳細に本人の言葉で記録し情報を共有し、それらを基に見直し、評価を実施している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、面会の延長や家族の外泊、受診の付き添い等、柔軟に対応している。		

事業者名: グループホーム菜の花 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議での情報交換、避難訓練時の消防署との関わり、小学校のボランティアの受け入れ地区の敬老会への参加、近所の理、美容院の利用や商店での買い物など実施している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人や家族に情報提供し希望する医療が受けられる様、支援している。また、ご家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に本人の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員居ない時間は、提携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため医師や看護師と相談し事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院出来る様、アプローチしている。また、職員が頻繁に見舞う様にしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	担当医の協力のもと緊急時対応の勉強会を実施し、AEDを設置するとともに勉強会を実施した。夜勤時の緊急対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し消防署の協力を得て年2回避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。非常食を準備し地域の協力体制については、自治会や消防団との連絡や運営推進会議で協力をよびかけている。		

事業者名: グループホーム菜の花 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やカンファレンスの折りに、職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方をリーダーが点検し本人の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせた声かけをし、些細な事でも本人が決める場面を作っている。(飲み物の選択、出欠カードのシール貼り、する、しない、の選択)職員の決めた事を無理強いしないで複数の選択肢を提案し自分で決める場面をつくっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や行事等本人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個性のある支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は本人の意向で決めており職員は見守りや支援が必要な時に手伝う。自己決定がしにくい方には、職員と一緒に考えて本人の気持ちそった支援を心掛けている。日頃から化粧やおしゃれを楽しみパーマや毛染めも利用している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夕食は運搬食のため調理を一緒にする機会は少ないが、おやつを一緒に作ったり、配膳や片づけ等を入居者と共に行い、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事出来る様雰囲気作りも大切にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の作成。食事の残食量のチェックと記録を摂取量を把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い能力に応じて職員が見守ったり介助を行っている。毎日嚥下体操を行ったり歯科医の協力で、定期健診を実施している。		

事業者名: グループホーム菜の花 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。状況の許す限りハビリパンツやおむつの使用を減らし、普通のパンツに尿とりパット等に対応している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を採り入れている散歩、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便が出来る様取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施している。夜間入浴も実施してみたが昼間の入浴を希望する方が多く現在の時間帯となっている。仲のよい方は一緒に入ったり1人が良い方はゆっくり1人で、簡易リフトを設置したり順番表を作ったりして対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休憩がとれるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬できているかの確認をしている。処方や内容の変更時や状態変化が見られるときは、詳細な記録をとり看護職員や医療機関との連携を図っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、エステや写真の掲載をお願いしている。また、「よそ行き療法」と銘打って本人の行きたい所や近所の喫茶店等に出かける。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は時間の許す限り散歩に出る。一人ひとりの習慣や楽しみ事に合わせて近所の喫茶店でお茶を飲んだり、彼岸にはお寺参り等積極的に外出している。		

事業者名: グループホーム菜の花 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>少額のお金を自分で管理し買い物に行き自分で払う人もいる。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや声かけを行うとともに、贈り物のお礼の手紙や葉書を書いてもらったりしている。家族から制限されている人もいるため考慮している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>調度品や飾り付けは懐かしく感じたり、使いやすい物品を置いている。また、季節の野菜や花を植えて季節感を採り入れている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>炬燵を置いたり、廊下に椅子をおいて別空間を作ったり、玄関にベンチを置きつるげるスペースづくりに取り組んでいる。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>寝具やタンス、仏壇等、写真や思い出の品々が持ち込まれ、居心地の良さを配慮している。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>何が分かりにくいのか、どうしたら本人の力でやってもらえるのか。を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。新たな混乱や失敗が生じた時は、職員で話し合い、不安や混乱材料を取り除き、自立支援につなげている。</p>		